

〔目的〕 近年わが国は急速に高齢化社会へと入りつつあり、高齢者の健康問題に関心が集まっている。ここでは健康維持のための第一の要因である食生活の中で「噛むこと」に着目し、高齢者の歯の状態と咀嚼可能な食品の関係を把握するとともにこれからの社会を担う子供に歯の大切さを自覚させることを目的として本調査を行った。

〔方法〕 岡山県浅口郡里庄町立里庄東小学校、同里庄西小学校の児童を介して、その祖父母752名を対象に、歯の状態、咀嚼可能な食品、好まれるが咀嚼困難な食品、歯について困ったこと、歯について児童が祖父母達より教えられたことおよび児童の感想を質問紙法により調査した。今回はこれらのうち、高齢者の咀嚼能力に関する結果の一部について報告する。なお食品の咀嚼の難易度*の判定には主として山本の総義歯の性能（咀嚼能率）判定表から選択した若干の食品に従った。

〔結果〕 1. 高齢者になるほど、また食品の噛みごたえ度が大きくなるにつれて咀嚼出来る者の比率が低下した。

2. 健全歯の者でも義歯装着者でも、食品の噛みごたえ度が大きくなるにつれて咀嚼出来る者の比率が低下した。

3. 義歯装着者の方が健全歯の者よりも咀嚼に困難を感じている者の比率が高く、またその差も噛みごたえ度の高い食品になるほど大きくなることが認められた。

* 豆腐(2)、煮魚(2)、まぐろの刺身(3)、ご飯(3)、かまぼこ(5)、するめ(5)、古たくあん(6)、かた焼きせんべい(6)、りんごの丸かじり(X)。()内の数字は咬度。